

平成29年度文京区アカデミー推進協議会第2回分科会(スポーツ・文化芸術)概要記録

日 時	平成29年6月21日(水) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター21階 2104会議室
出 席 委 員	座長 水越 伸 (東京大学院教授) 井上 充代 奥村 透 高澤 芳郎 牧野 恒良 海藤 早希子
欠 席 委 員	(なし)
事 務 局	竹越アカデミー推進課長 木村スポーツ振興課長 矢部文化事業係長 川口文化資源担当室長 篠田(スポーツ振興課係)
資 料	次第・文京区アカデミー推進協議会分科会別名簿・事業パンフレット
(議事) 1 開 会	(1)分科会の進め方について (2)区より事業概要補足説明
2 アカデミー推進 計画のスポーツ・ 文化芸術分野にお ける平成28年度の 事業実施状況の点 検及び評価につい て  ・委員発言 ◎事務局発言	<p>・座長より</p> <p>前回、区の方に事業概要を説明してもらい、今日は、調査結果を踏まえて、課題がある思ったものはピンクの付箋に、うまくいっているなど思ったものを緑の付箋に、一人3枚ずつ以上書いてもらいます。その前に区から事業概要の補足があればお願いいたします。</p> <p>◎文化芸術分野の事業は非常に多いと思う、同じような事業は統廃合し一緒にするなどの意見もあるかもしれないが、それぞれの事業の成り立ちやこれまでの経緯があるので、簡単にはできない。区がどこまで文化行政に携わっていくか、本来それぞれが自立できたときは、それぞれで活動してもらおうのに対して何かしらのバックアップをするという考え方があるかもしれません。</p> <p>・統廃合も難しい、区がどこまで差し伸べるのかも難しい</p> <p>◎一律に効果効率だけでは図れない部分もある。</p> <p>・是々非々で議論していかないと動かない。</p> <p>◎スポーツはオリ・パラの影響も有り、新たにチャレンジするものが企画しやすい。</p> <p>・全般的に新規のものが少ない、もう少し動いてもいいかなと思う。</p> <p>・新規事業は予算の関係があつてできないのか、要求していればできるのか。</p> <p>◎各係では、毎年新規事業を提案し、課や部で提案をあげる重点施策となれば新たな事業として予算も付きやすく、事業もやりやすい。</p> <p>・座長より</p> <p>大学では全学部の人が企画書を提出し、各部所全学で点数をつけ、順位づけする。プロセスは全学に開かれている。AをつぶしてBとはならない。</p> <p>しかし、企画される場所は区役所で、基本的には非常に人が少ない、新しいこともできない、長年親しんでいるものを切ってもいけないというジレンマがあるが、このことをある程度理解しつつ、ここに居る方々は専門家なので、それぞれの事情もお分かりかとは思いますが、クールに評価していきます。</p>

	<p>それでは、課題と褒められること、それぞれ3点以上付箋に書いてください。</p> <p><b>【ワークショップ実施】</b></p> <p>(1)付箋に記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題とか要望をピンクの付箋に、結構うまくいったものを緑の付箋に、一人3枚ずつ以上記入する。</li> </ul> <p>(2)付箋分類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツと文化芸術に分けて付箋を模造紙に貼っていく。分けられないものは真ん中に貼っていく。</li> <li>・付箋を分類する。</li> <li>・分類した付箋を整理しながらホワイトボードに移し、分類ごとにディスカッションを行った。</li> </ul>
<p>3 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここで出てきた意見等からスポーツが4つ、文化芸術が3つある分野別目標における評価と対応についてまとめていく。</li> </ul> <p>(1)スポーツ</p> <p>①分野別目標1.スポーツを身近に感じる機会の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツがおもしろいと思うような機会をつくる。プロスポーツやパブリックビューイングでのスポーツ観戦など</li> <li>・読売巨人軍と連携協力で少年野球の指導であるジャイアンツアカデミーを週1回から2回に増やしている。</li> <li>・プロスポーツの指導者や団体から教わることでスポーツを身近に感じている。</li> <li>・プロスポーツ団体や企業もあり分野的目標はできている。</li> </ul> <p>②分野別目標2.いつでも、どこでも、誰でも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツをともに楽しむ意識の醸成とは、新しくどんどん入ってきてほしいということです。</li> <li>・障害者スポーツの普及振興は、障害者スポーツを見てもらうこと。</li> <li>・スポーツを始める、新規に入ってもらうには、体験型のようにきっかけが必要である。</li> <li>・新規の人に行ってみたいと思うような情報、広報でつなげていく。</li> <li>・多様なニーズ対応するについては、オリンピック・パラリンピックに向けて、メニューはいっぱいあり、やってもいるが、情報が伝わっていない。</li> <li>・文化芸術におけるお祭りや国際交流フェスタのような一堂に会せるものがスポーツにはない。ネットだけでなく実際に回れると良いので、スポーツの見本市のようなものがあれば良いが、難しいようである。他の分野のフェスのときにスポーツを紹介したり、相談できるブースを設けてはどうか。</li> <li>・初心者向け事業も多くやっているが、新しく始めようとする人にスポーツを結びつけるには、情報提供の工夫がいる。</li> </ul> <p>③分野別目標3.スポーツ活動を支える環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽にスポーツを楽しめる環境の整備については、場所があるかということと、始め</li> </ul>

る人が気軽に来られるかということで、施設はすでにいっぱいいっぱいである。そこで、大学の施設利用を考える。

- ・スポーツ交流ひろばをもっと活用できればよいが、知られていなかったりする。
- ・探しているスポーツをインターネットで検索してもパッと出てこない。
- ・スポーツボランティアの活動支援では、オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツボランティアを養成し、文京区だけにとどまらず他区にも派遣できるようにしている。
- ・ぜひ坂を使ったスポーツをやってほしい。「全力坂」という番組もあり、CATVで放送すると良い

#### ④分野別目標4.スポーツを通じた仲間づくりと交流

- ・初心者向けスポーツ教室を数多く実施しているが、その後、継続して行っているか不明である。
- ・障害者向けの4区(文京・台東・荒川・北)合同レクリエーション大会を行っている。
- ・大学の施設や指導者を活用することを検討してはどうか。
- ・カイザースラウテルン市長杯文京区少年サッカー大会で東大サッカー部にお手伝いをしていただいている。

#### (2)文化芸術

##### ①分野別目標1.だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり

- ・多様な事業が展開されていて、いろいろなニーズに応えている。しかし、多様な情報提供の仕組みも考えなければいけない。
- ・これだけある情報を区が全部一元的に管理するのは無理で、いろんな人が情報提供していてもよいがリンクだけは貼れるようにタグだけは付けて、多様な主体・媒体による情報提供の仕組みにする。
- ・区報に載せたり、チラシを配ったり広報は結構やっているのだけど、それ以上できない。新しいとか、人の心に訴えかけるとか効果的な情報提供ができるのか。
- ・広告代理店でなくとも区内の大学に頼めばできる。
- ・どこに何があるのか分かりにくい感はまだある。
- ・SNSで情報をシェアするのは広報の課題である。

##### ②分野別目標2.文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

- ・鑑賞だけでなく自分も演奏してみるとか、自分たちで作ったものを見てもらうとかは結構あり評価できる。
- ・吹奏楽クリニックをしているところを他の人にも見てもらいたい。切り口の問題である。
- ・小中学校に書道の先生や狂言を教えに行く方を選ぶ場合、その本質を教え知らせられる方を選んでほしい。
- ・楽器庫とリハーサル場所が一緒とうことはすごいことで支援となっている。
- ・支援する代わりにコンサートや学校に教えに行ってもらうという恩恵を受けている。

##### ③分野別目標3.「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

- ・自治体との交流として、赤門を調べると金沢を知り、金沢との文化交流が生まれる。

	<p>それをきっかけに昨年、「金沢講座」を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・文京区には江戸時代のものがたくさん有るが、それとマップがつながっていないと思う。マップに仕掛けをすれば自分たちでマップを使って歩きはじめる。</li><li>・文京区は江戸の古地図のまま歩ける。一人で歩くのがという方は、「史跡めぐり」事業に参加してもらって、それから一人で歩いて、自分がインプットしたものを他の人に伝えるなどガイド役をやる。</li><li>・長崎さるく博、「さるく」は「そぞろ歩き」という長崎の方言で、ガイドさんがいて一緒に歩くだけというのが当たった。なぜなら、グラバー邸とかあるのでパビリオンなど作る必要が無い、それで、地元のしっぽく屋さんなどが儲かっている。文京区も同じです。</li><li>・もう観光地や有名な所が固定してしまっているのが問題であり、いろんな歴史があり、取り上げられていくと良い、それが文化資源の再発見。この辺りは、まだ手がついていない感じのところ。</li><li>・まち歩きなどで、人材育成は十分なされている。文化資源の再発見、整理とか広報はこれからの課題である。</li></ul>
--	--